

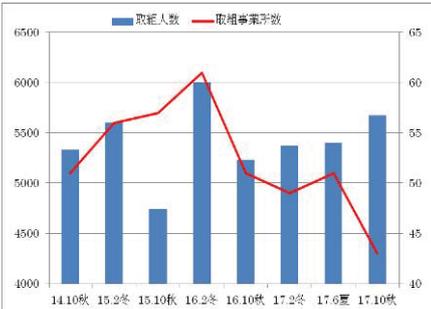


2017 秋の環境一斉行動週間 43 事業所・5,675 人

10月20日(金)～26日(木) 7日間に
行われました 2017 秋「環境一斉行動
週間」の集約・集計ができました。

事業所数	43 事業所
取組人数	5,675 人
ノーマイカー	7,182 回
プラステン	8,399 回
タイヤ・車内荷物	4,987 台
冷蔵車の省エネ	4,461 台

これまで「環境一斉行動週間」に
取り組んでくれた事業所と人数の
推移をグラフにしてみました。



時期	事業所数	人数
2014年夏(7月)	59	6,453
2014年秋(10月)	51	5,330
2015年冬(2月)	56	5,604
2015年秋(10月)	57	4,747
2016年冬(2月)	61	6,005
2016年秋(10月)	51	5,235
2017年冬(2月)	49	5,372
2017年夏(6月)	51	5,399

今年の夏(6月)に取り組んで
くれた事業所で今回は残念ながら
取り組んでくれなかった事業所も
あり事業所数は51から43と大きく
減ってしまいました。人数は5,399
人から 5,675 人と増えましたが…

「環境一斉行動週間」の取組事業
所の内訳を少し見るとその実態と
課題が何となく見えてきます。

研究会が呼びかけを行っている
にもかかわらず研究会参加28事業
所のうち、取組事業所は約半分の
15事業所に留まっています。また、
研究会が審査・支援している地域
独自の環境マネジメントシステム「南
信州いむす21」登録事業所では、
南信州宣言…1/5、上級…3/7、
中級…9/15、初級…5/23 です。
大きな課題を示している気がします。

新しい取組項目に多く参加 「歩こう動こうプラステン」

今回の「環境一斉行動週間」の新規
取組項目として「歩こう動こうプラス
テン」を取り上げました。報告では
これが一番多い取組となりました。

取組項目	取組数	／5675人
ノーマイカー (賢い移動手段)	7,182	1.27
歩こう動こう プラステン(+10分)	8,399	1.48
タイヤ空気圧・ 車内荷物チェック	4,987	0.88
冷蔵車の省エネ	4,461	0.79

「歩こう動こうプラステン」を継続
して取り組みたいという意見も多く
届いています。飯田市の保健課で進
めている活動ですが初めて知ったと
いう人も多く、PRの難しさを感じ
ます。「環境一斉行動週間」も同様、
定着にはほど遠いのかも知れません。



「今より1日10分多く
からだを動かしましょう」
日常の中でのプラステン
パンフレットから紹介します。

デスクワークの方は

職場で

- ・こまめに動く
 - ・階段を使う
 - ・両膝をくっつけて座る
(内ももの引き締め効果的!)
 - ・姿勢を良くする
- 体を使う仕事の方は
- ・ストレッチを意図的に取り入れる
(肩回し・腰回し・大きく伸び)

ラジオ体操

自宅で

- ・テレビのCM中は
ストレッチや体幹トレーニング
- ・歯磨きをしながらふくらはぎを
伸ばす
- ・お風呂でストレッチや自転車こぎ
- ・家事をしながらかかとの上げ下げ
- ・畑仕事

「注意! はじめから無理をせず、
自分のペースで安全に」とあります。
詳しくは市ホームページ「プラステン」で。



南信州いむす21プロジェクト会議 第4回全体会議で確認



11月29日(水)に行われた会議
では12月13日(水)の研究会事業所
代表者全体会において報告する
資料の内容を確認・修正しました。
南信州いむす21プロジェクト会議
その3つの検討チーム①「仕組み」
②「研究会」③「翻訳」での検討案に
ついて議論し確定していきました。

①「仕組み」では、受付窓口、審査
料金、訪問支援、事業所間交流会・
法令講習会、審査員の基準、法規制
順守審査、広域連合と研究会の位置
づけ、認証登録証などこれまでの
運用の課題を踏まえて見直され
ました。②「研究会」では、研究会を、
本来業務での具体的な改善事例を
どうわかりやすく伝えていけるか。
③「翻訳」では、環境マネジメント
システムの専門用語をいかに平易な
用語・表現で要求事項としていくか。
研究会の事業所代表者全体会を
踏まえ、次回12月25日(月)のプロ
ジェクト会議でさらに検討が深め
られていきます。まだまだ、確定に
至るには時間がかかることでしょう。



20年間、これまでずっと掲げて
きた「ボランティア」な性格としての
研究会です。しかし、その力量が
問われ、その活動についても「持続
可能」であることが問われています。
そして、取組事業所が何を求めて
いるか、逆に何を求めるかも明確
にしていかなければなりません。

【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ先】

福岡健志(多摩川精機株式会社) 研究会事務局

takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



豊かな風土を 後世に引き継ぐために 飯田信用金庫



平素は飯田信用金庫をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。専務理事の水野隆志でございます。当金庫は飯田・下伊那に本店・支店を置く地元金融機関として、金融を通じて地域の経済発展に寄与することはもとより、飯田・下伊那という豊かな自然に囲まれた地域を未来に残していく責任を感じております。

経済・文化貢献に加えて、環境改善に取り組むことは企業住民としての責務と考え、この目的をより合理的・効果的に達成するための手段として、平成12年11月に国際的な環境マネジメントシステムであるISO 14001の認証を取得しました。範囲は当金庫本店、支店、研修所及び関連会社(3社)とともにグループ全体として取得し、今年度に2015年版の新しい規格での認証を受けました。



事業活動における環境負荷軽減として、電力等エネルギー使用量削減に取り組み、CO₂排出量は16年前と比べて3割強を削減できております。

環境に配慮した素材利用

ユニフォームスカートはペットボトル再生繊維を60%使用し、使用後はサマリサイクリングしております。エコクロス通帳を採用し、紙100%の用紙により製造過程で発生する切れ端が新たな資源に生まれ変わります。また、ベジタブルインキを使用しています。

融資商品による取り組み

平成17年からCO₂削減に効果のある商品の購入に際して、融資金利を優遇する自動車ローンや住宅関連ローンの取り扱いをされており、お客さまにご利用いただくことで削減に寄与しております。

リサイクルの推進

事業活動に伴う廃棄物の95.6%をリサイクルし、廃プラと廃タイヤはサマルリサイクル、その他はマテリアルリサイクルをしております。

環境配慮型施設

従来工法から外断熱工法への採用により開口部ペアガラスの断熱サッシの設置と外壁赤外線反射塗料の塗布を行いました。カーボンピネット工法の採用により工期短縮と撤去解体時の建設副産物・高圧洗浄水の使用量を減量しました。その他、太陽光発電システム・太陽光発電屋外照明灯の設置やLED照明の採用・高効率熱交換型換気システムの採用及び駐車場緑化舗装を行っております。また、平成18年度から灯油焚きボイラーを廃止し空調機器電氣化によるCO₂削減と灯油地下タンク廃止によるリスク低減を図っております。

照明器具の全店LED化

現在、消費電力の削減及びメンテナンスの軽減及び廃棄物の削減を図るため、照明器具の全店においてLED化を順次進めております。

環境情報の発信

天竜川水系環境ピクニックへの参加や飯田市燃やすごみ袋への広告協力(広告料は環境改善策に活用)及び住民主体の再生可能エネルギー事業への支援を行っております。

今後も当金庫グループにおける所属員の環境への取り組みが、家庭、更には、お取引さまへと波及し、当地域の環境や地球環境の保全へと広がるよう活動を継続してまいります。



天竜川での環境ピクニック

事業所代表者全体会 関代表から研究会へ問題提起



12月13日(水)10時~12時、市役所で地域ぐるみ環境ISO研究会の事業所代表者全体会が行われました。冒頭、関代表から研究会の20年を振り返り、これからについて「ダイナミズムとスピード感」という視点で問題提起がなされました。年が変わった次号に特集として詳細に報告する予定です。

会議では、「南信州いいむす21プロジェクト」での検討の内容、「南信州いいむす21」審査への対応、秋の環境一斉行動週間などが報告されました。会議資料は研究会のホームページに掲載していきますのでご覧ください。

「南信州いいむす21」 登録証交付式 2事業所に

12月18日(月)、飯田市役所市長室で南信州いいむす21の登録証交付式がありました。更新で初級の南信州スクリーン工業と新規でISO 14001南信州宣言の多摩川パーツマニュファクチャリング(株)へ広域連合長である牧野飯田市長から交付されました。

登録事業所の挨拶で多摩川PMの松澤社長はウミガメ保護には海だけでなく川上からの浄化が必要であり、環境は一事業所一地域だけでの取り組みで保全できるものでないことを述べていました。研究会の点から面への活動の原点を聞いた感じでした。

登録証はさっそく額に入れ本社の玄関に掲示したとの連絡がありました。登録事業所数はこれで51。今年は新規の、しかも、上位のレベルでの事業所が増えています。システム全体の、研究会の力量アップにつながればと。



【ご意見、お問合せ】、【返信解説】

福岡健志(多摩川PM機株) 研究会事務局
takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「南信州いむす21プロジェクト会議」 改訂版リリースの2017年

新しい年となり、私たち地域ぐるみ環境ISO研究会の活動も、20年の歴史を踏まえ、世界の潮流も意識し、新しいステージへと進めなければなりません。昨年「南信州いむす21プロジェクト会議」で検討している「南信州いむす21」もいよいよ改訂版のリリースを迎えます。今年最初のぐるみ通信は、プロジェクト会議メンバーから改訂版に対する意気込み、思い、苦労している点等々を語ってもらいました。今年も研究会をよろしくお願ひいたします。



私の担当は「事業所本来の活動に対する改善の情報提供」の部分です。そのため研究会事業所に改善事例の募集を実施しています。私は改訂版「南信州いむす21」での活動が「登録事業所への適合」のための改善活動ではなく、「会社の発展」や「従業員の働きやすさ」等に寄与する改善活動になることが理想と考え、その手助けができればと思い取り組んでいます。携わる皆さんの「やりがい」を意識しながら今後も活動していきます。

【木下喜絵@オムロンAM】

今回、南信州いむす21の改訂版作成に携わらせていただきましたが、業務で環境ISOやエコアクションにほとんど触れてこなかったため、ほぼゼロからの理解に苦労しています。市全体での取り組みや事務局としての思いなど、少しずつ解り始めましたが、環境ISOの簡易型で資金面や基準緩和はありがたいが、メリットがあまりなく取得する目的がはっきりしない等、未登録企業の立場になって考えると難しいかなと感じました。【久保田 忍@三菱電機】

やりがい・メリット・実感 身近な・モデル・様々な見方

ごみを分別する、リサイクルをする、エコバッグを使う、節電をする。そんなエコな言葉は随分定着しました。持続可能な社会を目指し次は何をしなければいけないか？あまり難しい仕組みにとらわれず、参加するそれぞれの人たちが、活動していることを実感できる仕組みにできればな～と思っています。

【羽生伸博@シチズン時計M】

新年を迎え、あらためて研究会20年の活動が、この地の環境活動に良い影響をもたらしたことを実感しています。今年は誰もが取り組める身近な活動を更に具体的に行えるように考え実践したいと思います。次世代に繋げる活動を皆様と一緒に取り組みましょう。

【松尾 優@旭松食品】

南信州いむす21は長野県が策定する総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0～学びと自治の力で拓く新時代～」の「2 豊かな自然・文化と共生し、人と地域が輝く南信州」の中で南信州地域の先駆的な環境な取り組みの1つとして掲出されています。今後も民間主導によるサステナブルな取り組みとして、他地域のモデルとなり発展されよう期待しています。【一柳和宏@南信州広域連合事務局】

「わかりやすい表現で簡潔に」ということで、南信州いむす21のマニュアル改定作業を進めています。普段使っている単語一つをとっても、わかりやすい表現にすることの難しさを実感しています。プロジェクト会議を重ねる度に、物事には様々な見方があることに気付かされます。今後さらに「地域ぐるみで環境改善活動」という思いや活動の輪が地域全体の多くの人達に広まればと思います。【村松圭介@吉川建設】



参加したい・わかりやすさ 取り組みやすさ・環の広がり

参加する仕組みチームでは主に運用面での流れを考えていますが、環境という概念にとらわれず、参加した事業所が取り組みやすい内容(活動)にするということに重点を置き進めています。しかし、現段階では事業所が参加したいと感じてくれる利点や意義という部分が薄い、南信州いむす自体の知名度が低い、審査員確保が難しいなど、問題点も多々上がっているのが現状です。問題点のクリアと仕組みとして完成させるには他チームとの連携という部分が重要であると考えています。

【鈴木利和@アイパックス】

メンバーそれぞれ会社の業務の合間の活動ですが、誰もが参加しやすく、取り組みやすい「いむす21」にしたい。そんな思いで私たち仕組みチームは改訂に向けて検討を進めています。「こんなに分かりやすいのなら、うちの会社も取組んでみるか」そう思って頂けるように頑張ります。

【代田哲広@夏目光学】

昨年8月18日プロジェクトが発足し5ヶ月が経ちました。発足当初、なかなか改訂の方向性が定まらなかったことを思い出します。この南信州いむす21は、仕組みを作った人、盛り上げてこられた人など本当に多くの人に支えられ、様々な思いを寄せていただいていることを改めて感じます。今年リリースに向けての後半戦。認証事業所の皆様に良い仕組みとなるよう、そして、さらに飯田・下伊那に環境マネジメントシステムの環(わ)が広がるよう頑張りたいと思います。

【福岡健志@多摩川精機】

【ご意見、お問合せ、問い合わせ】

福岡健志(多摩川精機株) 研究会事務局

takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



旭松食品(株) こうや豆腐 ユニークな一流企業に 執行役員生産統括部長 平澤公夫



私ども旭松食品株式会社は1950年創立。翌51年に、こうや豆腐製造に着手いたしました。以降、従来の膨軟加工で使用していたアンモニアから重曹への加工方法転換、こうや豆腐を使用した介護医療食品の販売と「健康性」を旗印にこうや豆腐の機能進化を図ってまいりました。

環境活動では1997年からISO 14001認証取得を目標に掲げ、ごみの分別から始まり、3Rの取り組みが国際規格レベルに到達する様にと全社で一丸となりユニークな一流企業を目指し、1999年にはISO 14001を認証取得し、現在に至っています。

昨今では更なる食品の安心・安全向上の取り組みとして、こうや豆腐業界では初となる国際規格・食品安心マネジメントシステム FSSC 22000を2015年に認証取得しております。

また、弊社独自の減塩施策であるこうや豆腐の膨軟加工を重曹からカリウムへ転換したことにより95%減塩に成功しております。このことが評価され、2017年11月に「厚生労働省健康局長優良賞」を頂いております。

省エネ取り組み ○エネルギー源の転換

当工場主要エネルギー源の1つであるボイラーの燃料を2012年にA重油からLPガスへ転換。地球温暖化を含む環境面・省エネ面への取り組み向上と燃料コスト削減を実現しました。また、この変更によりCO₂排出量を転換前の11%(879t/CO₂)の削減を達成しております。

○工場照明機器のLED化

省エネ推進の一環として当工場の照明機器を既存の照明からLED照明へ変更しております。工場延床面積に必要な安定した照度を確保するため、定点照度を計測し、点灯時間設置位置から優先順位を定め、交換を行ってまいりました。現在では全工場の95%がLED照明となっております。

○外部機関による省エネ診断

一昨年から自社省エネ取組の他に外部機関にお力添えで省エネ診断を

して頂いております。工場内の生産設備における管理面・運用面の両方から診断頂き、ご指摘事項を改善してまいりました。一昨年の改善実績ではCO₂排出量12.5t/CO₂の削減効果を得ております。

新たな取り組み

2017年7月 旭松バイオセンター竣工(資源循環型施設)

2012年から構想、計画しておりました「汚泥発酵肥料施設」旭松バイオセンターがこの度竣工しました。

主力商品である凍り豆腐から発生する土壌微生物の余りである有機汚泥を肥料になるまでの一連の工程を年間1,500tの有機汚泥を受入れ肥料を製造する施設となりました。

旭松バイオセンターの事業概念は凍り豆腐製造から出る副産物を肥料にして良質な土を作り農作物ができてそれを人が消費する。“これが大豆であれば大豆からできた凍り豆腐の副産物から肥料を製造し大豆畑に施肥して大豆が収穫され凍り豆腐がまたできる。”副産物とはいえ有機微生物の塊であるので農業に使える大切な資源なので捨てるのではなく使う。使い捨ての世の中から資源が循環する持続可能な農業に貢献できる事業です。



汚泥発酵肥料の生産過程ですが有機汚泥(微生物の塊)と間伐材チップを原料にして混ぜて70~80度で発酵させ2~3週間かけて堆肥化させる、これは昔ながらの自然に近い肥料の作り方で、自社独自手法により生産過程でも臭いを出しにくい製造工程と管理を行い、囲われた施設でなく開放された自然に近い中で汚泥発酵肥料を製造します。

運営にあたっては、地元泰阜村、三耕地地区と環境協定を結び、環境保全を第一に品質の高い有機質肥料を継続して生産できる体制を構築いたしました。

今後G-GAP認証のもと高付加価値農産物の生産につなげることを目標に持続可能な農業に貢献できる事業を継続して参ります。

今後も「地域ぐるみ環境ISO研究会」設立時の企業として地元の環境活動推進に微力ながら取り組みたいと考えます。

冬の環境一斉行動週間

2月7日(水)~13日(火) 3項目

研究会が地域に呼びかけて実施する「2018冬の環境一斉行動週間」。CO₂削減を目的とした小さな取り組みですが事業所内だけではなく家庭・地域全体に少しでも広がりますよう、多くの皆様にご参加、ご協力、よろしく、お願いいたします。

この取り組みは、事業所全体でなくても、ひとつの職場、先ずは担当者1人だけのでも結構です。無理なく、取り組みの輪を少しずつ家庭に地域に広げていきましょう。

◆期間 2月7日(水)~13日(火) 7日間

◆取組内容

- ① ノーマイカー
~移動手段を賢く選ぶ~
- ② ピークカット5%削減
~冬の信州 省エネ大作戦~
- ③ 歩こう動こうプラステン(+10分)

◆報告 2月28日(水)までに

◆通知・様式・資料
研究会のホームページに

① ノーマイカー

・通勤や買い物での公共交通の利用、徒歩、自転車、バイク、相乗り、環境負荷の低い乗り物への乗換えなどのノーマイカー、エコドライブ運動を継続。

② ピークカット5%削減

・県全体で取り組んでいる「冬の信州省エネ大作戦」(12/1~3/31)の節電・省エネに挑戦します。電力使用のピークとなる9~11時、17~19時のピークカットや、使用の時間帯の工夫、温度設定の見直し、ウォームビズで賢く節電をしてみましょう。

③ 歩こう動こうプラステン(+10分)

・環境をもう少し大きくとらえて、健康面で飯田市保健課が進めている「歩こう動こうプラステン(+10分)」に秋に引き続いて取り組みます。「今より1日10分多くからだを動かしましょう」。自分のペースで寒い冬ならではのプラステンを①・②の取り組みと連動して、無理せずに行えることから始めましょう。

【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ先】

福岡健志(多摩川環境機株) 研究会事務局

takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



地域から創る社会イノベーションと 持続可能な社会(SDGs)



2月4日(日)午後から早稲田大学大隈記念講堂の小講堂で行われた「地域から創る社会イノベーションと持続可能な社会(SDGs)」に研究会事務局として参加・発表しました。

このワークショップは、日本生命財団・学際的総合研究助成「環境イノベーションの社会的受容性と持続可能な都市の形成」2年間の学術研究成果発表の場として位置づけられるものでした。研究代表は早稲田大学の松岡俊二教授です。

学際的研究プロジェクトで何度も飯田に来て調査されました。また、一昨年2016年12月13日に飯田人形劇場で行われた研究会設立20周年記念式典では「南信州・飯田市における持続可能な地域産業社会の形成から学ぶ研究会の20年とこれから」と題して、研究会活動を外の目から検証していただきました。

松岡教授の基調講演に続いて、第I部では3都市、低炭素社会として飯田市、資源循環型社会として静岡県掛川市、自然共生社会として兵庫県豊岡市それぞれの社会実験を分析・評価しました。その観点は「社会的受容性と協働カギンス」で、日本の地域における持続可能な社会形成のための社会イノベーションの共創・創発と普及のメカニズムを明らかにしようとしたものでした。



社会イノベーションと地方創生 何が問題？誰がどうすれば？

使われている言葉が難しいのですが、次のように説明されました。

社会イノベーションとは「地域の持続性課題の解決のために新たな社会的仕組みや組織を創出し、新たな社会的価値をもたらす革新」。

その共創と創発のための「場」「協働カギンス」「社会的受容性」といったものが要素として提供されました。それぞれの説明も難しく…。

低炭素社会として飯田市の社会実験の研究発表は、升本 潔さん・中村 洋さんとの3人を代表して渡邊敏康さん。皆さんもうすっかり飯田・研究会との縁の深い方々です。



第I部での3都市の社会実験の分析・評価を踏まえて、4人による討論がありました。第II部では6人による発表、そしてパネルディスカッション。第I部の研究成果を発展させ新たな公民協働アプローチとして注目を集めているドイツのシュタットベルケと福島イノベーションユースト構想等による新たな産業の創出に取り組む福島県などの事例や会場からの意見も加わり「社会イノベーションと地方創生」の議論が松岡教授により深められました。

研究会は設立から20年の活動の歴史を踏まえ、解決すべき課題も多くなってきています。もちろん、これまでの先駆的な活動の成果も評価すべきでしょう。しかし、社会実験だけに終わることなく、冷静な見直しをする時期にも来ています。

基調講演のスライドにありました。「何が問題なのか?」「何を問題とすべきなのか?」「誰がどうすればいいのか?」素朴な問いかけですが、こうした基本的な見直しが求められているような気がします。いま。

「南信州いいむす21」 システムの見直し大詰め



会議を重ね、検討を重ねて見直してもなかなかシステムは完成しません。この言葉はシステムを利用し運用する人に分かるのか?もっと分かりやすい別の簡単な言葉での表現はないだろうか?そもそもこの要求事項は本当に必要だろうか?

地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」、この地域の約50の事業所が取り組んでいます。支援や審査で出向いて事業所での運用の実態を知っているだけに、悩みます。検討に時間がかかります。

気候変動。飯田の役割!

- ◆とき 3月15日(木) 午後6時~7時半
- ◆ところ 飯田市役所 C棟3階会議室 C311~313
- ◆内容 講演と対談
- ◆主催: 飯田市
共催: 地域ぐるみ環境ISO研究会
後援: 地球・人間環境フォーラム

飯田市役所がISO 14001の運用を2003年に審査登録から「自己適合宣言」に移行した日、飯田市が2009年に環境モデル都市に内閣府から選定された日、どちらも1月23日でした。この日の近くに、毎年、自分たちの取り組みを原点から見直す、そんな環境イベントを行っています。

寒さも厳しく雪も多い今年は、3月15日(木)夕に設定しました。研究会も共催です、詳しくは次号で案内させていただきますので、日程確保だけ、よろしく願います。



【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ先】
福岡健志(多摩川精機株) 研究会事務局
takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



気候変動。飯田の役割！ 3月15日(木)18時～市役所で

飯田市「環境モデル都市」認定・飯田市役所ISO 14001自己適合宣言移行記念

気候変動。飯田の役割！

2019年
3月15日(木)
18:00～19:30

飯田市役所
C棟3階
C311～C313

主催：飯田市 共催：南信州広域連合・地域ぐるみ環境ISO研究会
後援：一般社団法人 人間・地球環境フォーラム

1 講演 高村ゆかり 氏
名古屋大学大学院 環境学研究所 教授

2 対談 高村ゆかり 氏
牧野光朗 氏
飯田市長・南信州広域連合長

再生可能エネルギーを軸とした社会に向けて世界は大きく動き出しています。温暖化の国際合意への協定もそれを後押ししています。

1月29日は、飯田市の「環境モデル都市」に認定された日。飯田市役所ISO 14001が審査合格から自己適合宣言移行した記念すべき日です。気候変動の実態を知り、広く視野を世界に向け、この自然豊かな地域で私たちが果たすべき役割を再考する必要があります。

【申込先・問い合わせ先】 飯田市環境モデル都市推進課 担当：小川
電話：0265-22-4511（内線5472）
Mail: ic0311@city.iida.nagano.jp

主催が飯田市、共催として南信州広域連合と地域ぐるみ環境ISO研究会、後援は人間・地球環境フォーラム、「気候変動。飯田の役割！」が3月15日(木)18:00～19:30に飯田市役所C棟3階で行われます。

講演を名古屋大学大学院環境学研究所 高村ゆかり教授にお願いできました。「気候変動」の真の実態、世界の動向についての問題提起を受けて、牧野飯田市長との対談で「飯田の役割」を探っていきます。

高村教授からはチラシをつくる上で次のメッセージをいただいています。「再生可能エネルギーを軸とした社会に向けて世界は大きく動き出しています。温暖化の国際合意、パリ協定もそれを後押ししています。」これは地球温暖化による「気候変動」の具体的な現象では？そんなことも最近多くなりました。しかし、地域にあって、「気候変動」と正面から向かい合うことは稀です。視野を広く世界に向け、この自然豊かな地域で私たちはいったい何をすべきか地域ぐるみでの挑戦を探ります。そのきっかけに、ぜひ。

申込先・問い合わせ先は次のとおりです。多くの皆様のご参加を心からお待ちしています。

飯田市 環境モデル都市推進課
電話：0265-22-4511
内線 5472
FAX：0265-22-4673
Mail: ic0311@city.iida.nagano.jp
担当：小林まで

「百万人のキャンドルナイトin南信州」 第10回の今年は5月26日(土)に

「百万人のキャンドルナイト in 南信州実行委員会」幹事会と総会が2月1日の夕方から旧飯田測候所で実行委員会に参加する団体により行われました。「第10回」を数える今年の開催日は5月26日(土)と決定しました。飯田りんご並木を中心とした屋外でのイベントであり梅雨を意識した開催日の決定です。

地域ぐるみ環境ISO研究会も実行委員会のメンバーです。昨年は地域に呼びかけて行っている「夏の環境一斉行動週間」をこの時期に設定し、取り組み項目のひとつに「ライトダウン」を加え実施しました。

「でんきを消して、スロ～な夜を。」そんなメッセージが毎年のポスター「竹宵まつり」の脇に小さく入っています。明るくて気忙しい世の中。「でんきを消して キャンドルを灯そう。あかりの向こうにきっと何かが見えるはず。地球のこと、家族のこと、考えてみませんか。」

家庭で少し早めのライトダウン、りんご並木へ出かけ竹宵の灯りを心静かに眺めてみる、そんな時間ひよっとしたら大切かも知れません。



昨年は6月3日(土)でした。

「第10回」にいたる実行委員会も決して平坦で順調ではありません。本来の全国での「百万人のキャンドルナイト」の「in 南信州」として環境を前面にすべきだ、「竹宵」の幻想的な賑わいの空間を多くの人たちに楽しんでもらいたい。実行委員会では「イベント」のあり方について毎年議論され続けてきました。

今年は新たに「ナガノシードルコレクション」との共催が決まり手探りのイベントにも、なります。それぞれの参加団体が提供するものを通じて、いったい何を求め、何をめざすのか。それぞれの違いを認め合いながら、こだわり、譲り合い創り上げる不思議な時間と空間は、実行委員会ならではのものです。

18冬の環境一斉行動週間 参加報告書が届いて

2月7日(水)から13日(火)の1週間、「ノーマイカー」「ピークカット5%削減」「冬の歩こう動こうプラステン(+10分)」3項目の取り組みを地域の事業所に呼びかけて「2018冬の環境一斉行動週間」を展開しました。取り組んだ報告が届いて現在、集約作業を進めています。

2017年2月の冬の環境一斉行動には49事業所5,372人が、直前の2017年10月秋の環境一斉行動には43事業所5,675人の取り組みが報告されています。まだ報告のない事業所もありますが、今回はどれだけの事業所で、どれだけの人の取り組みがあったか集約する側としては結果が大変気になります。



いまの世の中、その気になれば、情報はいくらでもある、情報はいくらでも手に入ると言えるでしょう。環境に関する情報もまったく同様で、氾濫していると言っても過言ではありません。そんな、日々発信される情報の中で何が大事なのかを選び入手することはとても難しいことです。

交流のある皆さんからも環境に関する情報提供があり、可能な限り情報共有をさせていただいています。昨年12月に放送され正しく衝撃を受けたNHKスペシャル「激変する世界ビジネス脱炭素革命の衝撃」そのもとなった番組の紹介がありました。第1回は済み、残りあと2回…。

- NHKBS1 シリーズ 脱炭素革
- ①2/26(月)23:00～ 激変する金融ビジネス
「石炭からの投資撤退」
 - ②3/ 5(月)23:00～ 激変する電力ビジネス
再生可能エネルギーへのシフト
 - ③3/12(月)23:00～ 激変する世界ビジネス
グローバル企業の挑戦

【ご意見、お問合せ、問い合わせ】
福岡健志(多摩川精機株) 研究会事務局
takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



18 冬の環境一斉行動週間 42 事業所 5,734 人が取組



「2018 冬の環境一斉行動週間」の取組報告書が事務局に提出されて取り組んでいただいた事業所数と従業員数の合計がまとまりました。周知と広報の難しさを毎回、痛感。

参加事業所数 42 事業所
参加人数 5,734 人

2017 秋 43 事業所・5,675 人
△1 事業所 +59 人
2017 冬 49 事業所・5,372 人
△7 事業所 +362 人

今回の冬の環境一斉行動週間は、2月7日(水)～13日(火)の1週間、「ノーマイカー」「ピークカット5%削減」「冬の歩こう動こうプラステン(+10分)」の3項目について、呼びかけました。報告では数と同時に多くの工夫した点やご意見も寄せられています。この冬は当地域でも特に寒い日が続き積雪も多く、インフルエンザも流行り、いつもより取り組みに苦労をしたようです。

取り組みの事業所名や工夫・ご意見など詳細な集約は、研究会のホームページに掲載していきます。事業所を越えた水平展開ができる取り組みが多く紹介されています。

少ししか紹介できませんが意見から「！」と感じたものを次に。

- ・2月13日は平谷では「マイナス17.1℃」でした！！
- ・「ピークカット」という取組を一斉行動週間で知りました。一斉行動でなくても紹介していただけるといいかなと思いました。
- ・「環境」から離れていっているように感じます。集約を必要とせず周知だけでも良いのでは。
- ・取りまとめ事務が非常に煩雑。電子申請など事務の省力化を。
- ・飯田市の広報などでもっとPRしたらどうでしょうか。

「南信州いむす21」登録証の交付 4事業所に登録は54事業所に

地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」登録証の交付式が3月6日(火)、飯田市役所の市長室でありました。この日、交付があったのは次の4事業所でした。

- 初級(新規) クロダ精機(株)
- 上級(更新) (株)原鉄
- 初級(更新) ダイワ設備(株)
- 初級(更新) (有)片桐清掃



南信州広域連合からの登録証は広域連合長である牧野飯田市長からそれぞれの事業所代表者に手渡し交付されました。これにより、登録事業所数は54事業所になりました。

- 初級(要求事項34) 27 事業所
- 中級(要求事項57) 14 事業所
- 上級(要求事項80) 7 事業所
- ISO 14001 南信州宣言**
(ISO 14001 規格要求事項)
6 事業所

「南信州いむす21」のシステムと審査・支援を担当している研究会では、ISO 14001 規格の2015年版への移行に伴うシステムの見直しの大詰め作業中です。大幅な見直しで取組事業所の規模や実態を踏まえ、要求事項を10程度に絞りました。

その要求事項は必ず取り組まなければならない必須項目と取組を選択できる任意項目によって構成されポイント制によりレベルが決まります。移行に当たっては説明会や個別の相談に応じることも予定しています。



明日「気候変動 飯田の役割」 それぞれの役割を自ら考える

飯田市(環境モジュール)認定・飯田市役所ISO 14001自己適合審査移行記念

気候変動。飯田の役割！

2018年
3月15日(木)
18:00~19:30

飯田市役所
C棟3階
C311~C313

主催:飯田市 共催:南信州広域連合・地域ぐるみ環境ISO研究会
後援:一般社団法人 人間・地球環境フォーラム

1 講演 高村ゆかり氏
名古屋大学大学院 環境学専攻 教授

2 対談 高村ゆかり氏
牧野光朗氏
飯田市長 南信州広域連合長



開催がよい明日となりました。年度末のお忙しい時期ですが多くの方の参加をお待ちしています。



2016年12月13日(火)に行われた研究会設立20周年記念式典で外部からの検証をしていただいた早稲田大学松岡俊二教授から論文が届きました。本文は研究会ホームページに掲載します。「持続可能な地域社会のつくりかた:地方創生と社会イノベーションを考える」これは2年間の日本の地域社会の持続性と社会イノベーションに関する共同研究をまとめたものです。低炭素社会のケースとして飯田市を当研究会活動などを通じて鋭く検証してあります。

その中で次の言葉が残りました。ソーシャル・イノベーションを起こす人達(Social Innovator)の存在は、社会イノベーションの十分条件として重要な要因であったように考えられる。/地域社会の空間において、地域の持続性への社会的挑戦が奨励され、たとえ失敗しても再挑戦を可能にするような寛容な社会条件や社会空間の存在がイノベーターの育成には不可欠だと考えられ、分析対象とした時期の飯田市…にはそうした社会条件が揃っていたように思われる。/飯田市は成功体験を持っているが、今後の地域社会の持続性という点では必ずしも持続力があるとは言えない。

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】
福岡健志(多摩川精機(株)) 研究会事務局
takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「気候変動 飯田の役割！」 自己適合宣言 環境モデル都市の検証



3月15日(木) 18:00~19:30 飯田市役所C棟3階会議室で「気候変動。飯田の役割！」の環境のイベントが行われました。主催は飯田市、共催は南信州広域連合と地域ぐるみ環境ISO研究会、後援は地球人間環境フォーラム(GEF)。東京のGEFによる講師との調整、助かりました。

このイベントは飯田市にとって大切な1月23日、この日の近くに環境に関するイベントを行って自分たちの取り組みを再確認し見直すものです。市役所ISO 14001が自己適合宣言へ移行した日、「環境モデル都市」に飯田市が認定された日がどちらも1月23日。今年は2か月遅れての設定となりました。

タイトルは短い方がエライ、「気候変動。飯田の役割！」としました。「。」!、飯田市でない「飯田」という表現にも強い思いを込めました。

「気候変動。」そして「飯田の役割!」2つの視点から講演に盛り込んで欲しい内容を事前に伝えました。飯田でできることは限られているかも知れませんが、大きな問題を小さな地域でどうとらえるか、と。



いつもながら参加できなかった人も含めて多くの人たちによって成立し成功したイベントでした。

参加者は89人。関係する多くの組織にも参加を呼びかけました。雪の心配は少ないものの、やはり年度未近くの設定は大変ですね。

毎年のイベント、もっと計画的に準備して、関係者だけでなく広く市民にもPRすべきと反省です。もっと多くの人に聴いて欲しかった内容でした。世界で何が起きているかについて、分かりやすい話。

講師は名古屋大学大学院 環境学研究科高村ゆかり教授。飯田ととても近いのに飯田は初めてのとのこと、また一人、外から新しい視点、これからの高村教授との大きな「縁」ができたことは嬉しいですね。

「気候変動とパリ協定 飯田への期待」 名古屋大学大学院 高村ゆかり教授

お願いした60分という時間設定で高村教授は「気候変動とパリ協定 飯田への期待」と題した講演を行ってくれました。スライドは80枚。その中から選んで飛ばしながら、分かりやすい内容の講演でした。

気候変動(温暖化)とその影響、パリ協定とは何か、パリ協定後の世界の大きな変化、地域ができること・飯田への期待。大きく4つの内容で話が進められていきました。

講演資料は研究会ホームページに掲載しますので都合で参加できなかった皆さんはぜひご覧ください。



60分余の講演を踏まえ、南信州広域連合長という立場も含め牧野光朗飯田市長との近い距離での約20分の対談が行われました。これから高村教授と飯田を結びつける対談になったと確信します。

牧野市長 「Think globally, act locally 地球規模で考え、地域で行動する」地球環境問題を論じる際によく使われる言葉。今年の年頭所感ではその真ん中に「get involved voluntarily 自主的に巻き込まれ」を加えた。「地球規模で考え、自主的に巻き込まれ、地域で行動する」Think globally, get involved voluntarily, act locally. ボスからのトップダウン型の「巻き込む力」ではなく、多数の人によるボトムアップ型の「巻き込まれる力」が様々なイノベーションをもたらす「百人による一歩」につながる...

トランプ大統領の言動・行動に関わらず、世界の動きをしっかりと見据え新たな物差しを持って地球環境と私たちの行動を考える必要がある。

牧野光朗飯田市長との対談 エネルギー自治からの地域力



高村教授 環境に関わる研究者から必ず飯田の名が出る。飯田の取り組みが全てうまくいっているかは分からないが聞いている先進事例は地域の資源をうまく活用している。太陽光発電も人材育成も国が動き出す前に飯田が動き出し、国に先駆けて飯田が行っていることもある。

牧野市長 これを縁にこれからはもっと飯田に来て、評価されている先進的事例を気候変動の視点から踏み込んで検証していただきたい。

高村教授 再生可能エネルギー普及に大事なFIT(固定価格買取制度)を使い、地域のエネルギー資源をどう展開していくか地域力が試されている。外からの乱暴な開発を許すか、自分たちの資源を生活向上や雇用創出につなげる源とする地域力か。

牧野市長 自然豊かなこの地域で自主自律の「ムス」「やらまいか」の考え方が強い。自分たちの地域のエネルギーのマネジメントは必要で地域環境権もまちづくりの考え方。

高村教授 脱炭素に向かってビジネスや金融が変わってきている。再生可能エネルギーがある場所でビジネスを望む企業が出てきている。

牧野市長 環境モデル都市は点の考え方、いかに面として拡げていくかが大事。範囲が広がると連携は難しくなるが気候変動に対応して地域で安全安心に暮らしていくには広い範囲での連携が必要となる。取り組みを振り返りながら、気候変動に対して、それぞれ自分たちは何ができるのか、地域で何ができるのか。あらためて、点から線へ、線から面への取り組みを目指したい。



思わぬ春分の日の降雪。遠い山はまた白くなりましたが桜はじめて花を外を楽しめる季節です。

【ご意見、お問合せ】、【翻訳解説】

福岡健志(多摩川精機株) 研究会事務局

takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



2018冬の環境一斉行動週間 次は5月26日～6月1日

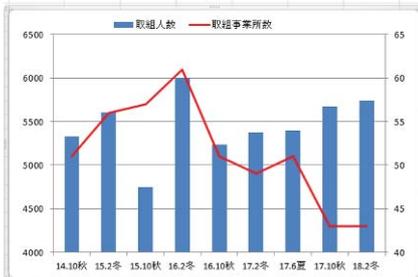
18冬の環境一斉行動週間 2月7日(水)～13日(火)

事業所数 43 事業所
取組人数 5,744 人
ノーマイカー 9,263 回
ピークカット 11,507 回
プラステン 9,150 回

2月の前半に行われた「2018冬の環境一斉行動週間」の集約ができましたので報告します。研究会の呼びかけに応じて、この環境一斉行動に、新たに取り組んでくれた事業所がある一方で、これまでの常連の事業所の参加がなかったりと拡がりの難しさを毎回感じます。

取組事業所の数は減った前回と同じ43事業所、取組人数は69人増でした。たいへん寒い期間中でインフルエンザの流行や積雪もあって、その中でのノーマイカーへの参加や電力使用のピークカットは大変な苦労があったようです。報告いただいた意見や工夫した点を研究会ホームページに掲載しますのでぜひ見ていただき参考にしてください。

「環境一斉行動」がきっかけとなり最後は環境を意識したライフスタイルへと変わっている皆さんも見受けられます。2回続けて取組の項目として「歩こう動こう+10分」の「プラステン」も少し周知できたようです。継続は難しいですが健康を少し意識する時間は大事ですね。



環境一斉行動週間

◆期間 5月26日(土)～
6月1日(金) 7日間

5/26 第10回百万人の
キャンドルナイト in 南信州

6/1 環境月間スタート

◆取組内容

- ① ノーマイカー
- ② ライトダウン
- ③ 冷蔵庫内の整理
- ④ 日よけ準備・エアコン掃除

次は

「南信州宣言いいむす21」見直し 第8回プロジェクト会議で検討



地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の見直しが「地域ぐるみ環境ISO研究会」のプロジェクト会議で進められています。

8月18日に第1回会議が行われ3月29日の会議は第8回となりました。プロジェクト会議は「仕組み」「研究会」「翻訳」「概要」という4つのチームに分かれていて、それぞれから検討結果について報告を受け、全体での検討が深められていきます。

会議メンバーにはしっかり宿題も出され次の第9回会議は5月11日、市役所で行われます。大詰めです。

「ISO 14001 南信州宣言」 木下建設株の自己宣言を確認



現在、「初級」「中級」「上級」という3つのレベルによる「南信州いいむす21」の仕組みは見直しにより大きく変わります。要求事項の数は、「上級」に要求されている84のうち「初級」で求められているのは34、「中級」は57となっています。例えば「取り組む範囲を確認する」という要求事項は全てのレベルに要求され、内部監査は上級のみの要求事項です。

「ISO 14001南信州宣言」は南信州いいむす21とは別の仕組みです。ISO 14001に定められている規格との適合の実証方法のひとつです。その3番目に定められている「自己宣言について組織外部の人又はグループによる確認を求める。」です。

ISO 14001規格との適合を自己宣言するにあくまでも取組事業所、研究会は求めに応じ、示された規格との適合を確認するということです。

2004年度規格での木下建設株に対する自己宣言の確認が3月26日、研究会により終日行われました。より業務と連動したコンパクトなシステムへ変更する必要性を痛感しました。2015年版移行作業を進めていきます。

「気候変動 飯田の役割！」その2 飯田市役所トップインタビューで

3月15日(木)に飯田市役所で行いました「気候変動。飯田の役割！」。「その2」として「気候変動」と「飯田の役割」をまだまだ突き詰めていきます。研究会も共催、飯田市役所ISO 14001のトップインタビューです。

気候変動。飯田の役割！ 飯田市役所 その2 ISO 14001 自己適合宣言 トップインタビュー

- ◆とき 6月7日(木)
午後6時～7時半
- ◆ところ 飯田市役所
C棟3階会議室 C311-313
- ◆内容
 - ・講演 地域・市民への拡がり
 - ・牧野飯田市長への3人からのインタビュー
- ◆主催: 飯田市
共催: 地域ぐるみ環境ISO研究会
後援: 調整中

牧野市長に3人のインタビューから飯田市役所ISO 14001の運用や方向性について質問・確認をして、今年7～8月の市役所の内部監査の重点監査事項を引き出すものです。

飯田市役所という地方自治体のISO 14001の自己適合宣言の運用は単に組織や職場内だけの取組では不十分でしょう。いかに地域内の事業所や市民に対し働きかけて、影響を及ぼし、そして、その結果、いかに巻き込まれるかだと考えます。

研究会参加の一部事業所や呼びかけに応じてくれる事業所が行う環境一斉行動や「南信州いいむす21」で、従業員が家庭や地域で行う「ぐるみ運動」だけでなく、市民に対し「気候変動」への対応を求めていくことが役割、必要でしょう。

今回のトップインタビューは、環境マネジメントシステムの視点に加え、より広く環境の取り組みの市民への拡がりの視点からも行うつもりです。



【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ先】

福岡健志(多摩川階機株) 研究会事務局
takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

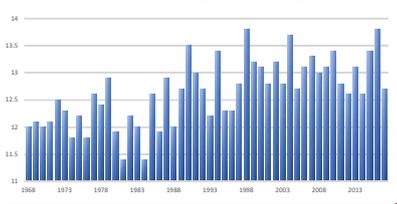


飯田市の過去50年のデータ 平均気温・猛暑日の推移



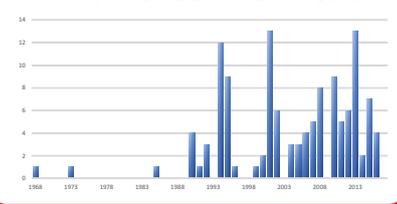
季節が毎年早くなってきている気がします。桜まつりにはすでに散っていた桜の花もそうですし、街中の「りんご並木」の花も道との境に植えられたチューリップの花も今年は昨年よりも早く感じます。飯田市役所で今週行われた環境ISO研修の序章において飯田市の過去50年の「平均気温の推移」と「猛暑日(35℃以上)推移」の2つのデータとグラフが示され参加者がうなづき納得していました。何となく「感じる」とか「気がする」が、明らかな推移で理解できました。

飯田市の平均気温の推移



飯田市の1981年、1983年の平均気温は11.4℃、一昨年は13.8℃、2.4℃もの差が生じています。特に1990年代後半ごろからは12.5℃を下回ることはなくなってきています。

飯田市の猛暑日数日の推移



猛暑日は1990年頃までは、ほとんどありませんでした。このころを境に急激に増え10日を超える年も出てくるようになってきました。



「竹宵まつり」は5月26日(土) シードルコレクション同時開催

さて、2018年今年の平均気温は、猛暑日の日数は、高い背のグラフとなるのでしょうか。やはり今年の夏は暑いのでしょうか。第10回目となる今年の「竹宵まつり～100万人のキャンドルナイト in 南信州～」。今年の開催は5月26日(土)、いつもより少し早い設定となっています。16時～20時45分、19時30分からりんご並木周辺がライトダウンです。また、今年は「南信州ナガノシードルコレクション in 飯田」が同時開催されます。長野県のおいしいシードルを味わおうお祭りです。県内30社が醸造したシードル(1杯100～400円)をチケットと交換、竹宵の灯りに照らされながら、宵のりんご並木で片手にシードルを。シードルコレクションは16時～21時、シードル交換が3,500円とお得な3,000円の前売り券も発売されます。当日券は500円です。



「竹宵まつり～100万人のキャンドルナイト in 南信州～」が行われる5月26日(土)から「2018年夏の環境一斉行動週間」がスタートします。その取組内容にはライトダウン、竹宵まつりへの参加も含まれます。ぜひ、予定をしておいてください。

環境一斉行動週間

- ◆期間 5月26日(土)～6月1日(金)7日間
- 5/26 第10回百万人のキャンドルナイト in 南信州
- 6/1 環境月間スタート
- ◆取組内容
- ① ノーマイカー
- ② ライトダウン
- ③ 冷蔵庫内の整理
- ④ 日よけ準備・エアコン掃除

今年もアサガオの種を配布 飯田自然エネルギー大学

緑のカーテンで暑い夏を涼しく

2018夏 環境一斉行動週間

5月26日(土)～6月1日(金)

① ノーマイカー
② ライトダウン
③ 冷蔵庫内の整理
④ 日よけ準備・エアコン掃除

5/26(土)第10回百万人のキャンドルナイト in 南信州
6/1(金)環境月間スタート

地域ぐるみ環境ISO研究会
環境ISO研究会は地域ぐるみのため、新しい環境意識の普及と向上を図る目的で活動しています。

アサガオの種が入っています。 飯田市の緑のカーテンに採りました。

詳しくは研究会のホームページで

研究会は今年も、飯田市役所の緑のカーテンから採れたアサガオの種を配布できるよう準備しています。「緑のカーテン」で暑い夏を少しでも涼しく！職場でも、家庭でもです。職場のとなりの駐車場に駐車されたクルマからの反射が気になる季節となりました。今年は昨年より少し早く種を蒔いて育てたいですね。

5月7日(月)応募締切

飯田自然エネルギー大学

2018～2019年度(第2期生)

受講生募集

募集期間: 2018年4月2日(月)～5月7日(月)
募集定員: 20人 (応募者の中から選定させていただきます。)

飯田自然エネルギー大学は、太陽光や小水力、バイオガスなど自然エネルギーを主力としたエネルギー事業に取り組む。事業の発展と地域社会との共生を目的として活動しています。

① 2日間のプログラム
② 受講料は無料
③ 受講生は、飯田自然エネルギー大学の施設で活動することになります。
④ 受講生は、飯田自然エネルギー大学の施設で活動することになります。
⑤ 受講生は、飯田自然エネルギー大学の施設で活動することになります。

募集要項: 飯田自然エネルギー大学 募集要項

お問い合わせ: 飯田自然エネルギー大学 事務局

おひさま進歩エネルギー(株)が行っている「飯田自然エネルギー大学」の第2期(2018～2019年度)受講生を募集しています。募集の期間は5月7日まで、定員は20人。2日間のプログラムが年10回です。主会場は飯田市の旧飯田測候所。



【ご意見、お問合せ、配信解除】
福岡健志(多摩川精機株) 研究会事務局
takeshi-fukuoka@tamagawa-seiki.co.jp
小林政昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp